

# 訪問看護ステーション 連絡協議会だより

## 第42号

発行年月 2021年9月  
発行所 岡山県訪問看護ステーション  
連絡協議会  
〒700-0805 岡山市北区兵団4-39  
岡山県看護研修センター3階  
TEL086-238-6688・FAX086-238-6681  
http://okayama.houmonkango.net/  
E-mail okayama@space.ocn.ne.jp  
発行責任者 江田 純子

### 会長あいさつ



一般社団法人  
岡山県訪問看護ステーション連絡協議会  
会長 江田 純子

皆様には、平素より当協議会活動の推進に対して、ご理解とご支援をいただき心よりお礼申し上げます。新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、訪問看護師による感染症のある利用者への訪問看護の対応体制を見直したり、感染対策の徹底や職員のメンタルヘルスに取り組まれ、通常業務の上に大きなご負担となっておられることと思

います。当協議会としては、最新情報の提供や関係機関との情報共有、感染対策用品提供事務など事業所に寄り添いながら支援したいと考えております。

さて、令和3年度の当協議会の重点事項は、

1. 訪問看護師の人材確保・定着
  2. 訪問看護師の資質向上
  3. 訪問看護の普及・啓発
  4. 平時・緊急時の訪問看護ステーション間のネットワーク強化
  5. 多職種とのネットワーク強化
- を挙げ、感染状況をみながら事業を進めています。令和3年度介護報酬

改定において、特に災害及び感染症への対応力強化、ICTへの取り組みが求められていることも踏まえて、研修や事業を展開してまいります。

また、訪問看護人材の確保、質の向上のため、訪問看護に関心がある看護職や看護学生を対象とした訪問看護ステーション体験研修事業を是非ご活用いただきたいと思

います。訪問看護講師人材養成研修会の受講生がリーダーシップを発揮し、昨年度立案した訪問看護人材の確保・定着・離職防止に関する事業の実施により、訪問看護師が増えることを期待しております。

コロナ禍の大変な時に、人との交流も制限され、辛いことも多いと思

いますが、ご自身の健康と生活、大事な人の健康と生活を守って、日々を大切に過ごしてまいりましょう。最後になりましたが、現場の声をお届けいただき、一緒に訪問看護の課題に取り組み、安定した訪問看護事業が継続できるよう、努めて参りますので、どうぞよろしく

### 「訪問看護と福祉用具」

株式会社ヤマサキ

管理者 小林 清次

2020年から始まった新型コロナウイルスの急激な増加により体調が悪くても入院したくない、できない患者様が在宅で生活するために、在宅介護サービスの従事者の方たちが頑張っていると思います。なかでも訪問看護師の方々は、コロナ対策をしながら在宅利用者様と向き合っていると大変な立場にいらっしゃると思います。私たち福祉用具貸与事業所は、そんなご利用者様や訪問看護師さんのお役に立てるよう日々勉強しています。入浴を安全に行うための道具、床ずれを作らない道具、移乗をやりやすくする道具、そしてそれらの使い方など困ったときには相談していただきたいと思



### 「在宅介護チームの一員として」

株式会社大塚製薬工場

河相 吉紀

大塚製薬工場は”The Best Partner Clinical Nutrition” (臨床栄養領域における患者さんや医療従事者のベストパートナーを目指す)という経営ビジョンのもと、事業活動を行っております。

輸液栄養製品をはじめ摂食嚥下、口腔ケア製品を通じて患者様及び訪問看護ステーション看護師様の活動のお役に立てるよう、安全で安心できる製品をお届けする努力を続けていきます。

製品関連のお問い合わせもお待ちしております。

#### 【主な取り扱い製品】

医薬品 輸液製品 (エルネオパ等)  
経腸栄養剤 (ラコール、イノラス、ツインライン)  
食品 経口補水液 (オーエスワン)  
濃厚流動食 (ハイネイゲル等)  
嚥下・咀嚼 (エンゲリド、プロセスリド)  
口腔ケア ヒノーラ



## わかくさ訪問看護ステーション

管理者 中野 歩

## 訪問看護講師人材養成研修会 受講後の活動

## 訪問看護ステーション瀬戸いこい苑

管理者 三原由記子

訪問看護講師人材養成研修は住み慣れた地域での療養生活を支える事が出来る訪問看護師人材を増やし、同時に訪問看護の質の確保、向上する事を目指し、地域で訪問看護師の育成を担う事が出来る人材を養成する事が目的です。参加者はそれぞれの地域の実態課題について会議を開催し、課題解決の為に研修会を企画、運営しています。私達は新任1～3年の職員相談会、交流会を開催し『自分の気持ちを言葉にして自分のニーズを知ろう』と佐藤直子氏を講師に迎え、多くの訪問看護師が悩む、コミュニケーション能力について「アサーション」の8つのタイプの自己表現について学びました。グループワークでは今の私の感情を知り、感情を言葉に出来たと思います。新任者のそれぞれの立場や思いを語り合う姿に接し、自分自身も訪問看護師としての振り返りが出来ました。今後も後輩育成に役立てればと考えます。このような機会を頂いた事に感謝致します。

令和2年度訪問看護講師人材養成研修会を受講し、人材の確保・定着の方策をグループで検討しました。わたしたちのグループでは、管理者が元気でなければステーションも元気が出ないが、忙しいとつい怒りがちになる。それではネガティブイメージが伝わってしまうばかりかスタッフからも話しくくなる。そこで、双方がうまく想いが伝わるようアンガーマネジメントについて知識を深めようということになりました。

講師に石井教育研究所の石井サト子先生をお迎えし、「管理者の感情コントロールはうまくできていますか？～アンガーマネジメントスキルの活用～」の講演を開催しました。

わたしは、管理者たるもの怒ってはいけないと思っていました。が、管理者も人間。人間というものは感情の塊であり、怒ってしまう。傾向を知っておくと怒り続けたり、激しい怒りにならなかつたりする。上手に怒れるようになること。怒る必要がないことは怒らなくてすむように、怒りをセルフコントロール出来ること。そうすることでうまく相手に想いを伝えることが出来るということが理解出来ました。

緊急事態宣言明けでなんとか研修に漕ぎつけたことも良かったです。今回は、対面でグループワークが出来る研修となればと思います。

## さくら訪問看護（倉敷・総社）

管理者 平林千恵子

## 新設のステーション紹介

さくら訪問看護は令和2年4月1日倉敷市に開設しました。「自宅で過ごす喜びを共に感じ地域に根差した看護を提供します。」を理念に現在、小児から終末期、周産期、難病疾患、精神疾患などを抱えた広い層の利用者様にご利用頂いております。看護師3名とまだまだ小さな事業所ですが、ご利用者様一人一人の人生の大切な時間に関わらせて頂けることを誇りに感じ、心身共に寄り添っていきけるよう日々邁進していきたいと思います。今後ともよろしく願いいたします。

また、コロナ禍での開設に伴い、諸先輩ステーション様、関係事業所様へのご挨拶もままならず、紹介の場をご提供頂きました訪問看護ステーション連絡協議会の皆様に深く感謝いたします。

## 岡山済生会

## きび訪問看護ステーション（岡山C）

管理者 西本 泉

岡山済生会きび訪問看護ステーションは令和2年11月1日、吉備病院内に開設されました。当ステーションがある足守・高松は岡山市の中でも高齢化率の高い地域で、高齢者世帯や高齢者の独居の方が多く訪問看護を利用していただいています。皮膚トラブル時や認知症の対応などには、併設病院の皮膚排泄ケア認定看護師や認知症認定看護師に相談ができることが心強いです。現在スタッフは常勤・非常勤併せて6名体制で平均年齢は45歳ですが、中には訪問看護が初めてというスタッフもいます。今年も夏の酷暑で、日々夏バテとの闘いですが、皆で明るく元気に地域の方へ親しまれるよう頑張りたいと思っています。

## 倉敷訪問看護リハビリステーションそら（倉敷・総社）

管理者 越智真由美

退院期間の短縮が図られるなか、住み慣れた在宅に帰りたけれど不安。住み慣れた在宅に帰らせてあげたいけれど心配。

そんな利用者様やご家族様の声に、心配や不安と一緒に考え、確実に解消できるように看護やリハビリを行っていきたいと思っています。

住み慣れた場所で、安心して過ごせるように日常生活の援助や予防医学のお手伝いを行っていきたいと思います。

### 理念

- 私達は、「安心の在宅看護」の理念を掲げ、一人一人に合わせた看護とリハビリステーションを提供いたします。
- 私達は、地域医療・福祉に携わるものとして、地域で病気や障害をもつ利用者様が安全で生き甲斐のある、豊かな生活を実現されるように支援いたします。

### 管理者の思い：人生楽しく笑顔が1番！

我が人生悔いなし！そんな生活をおくっていただきたくお手伝いさせていただきます。

沢山の笑顔が見たいから...ご利用者様のみならずご家族様にも寄り添い、安心・安全に在宅生活が過ごせるよう、かかりつけのお医者様やケアマネジャー様、その他の事業所担当者様と連携を取りサポートさせていただきます。

一期一会を大切に、まずはご相談していただきたく思います。地域の皆様に未永く愛していただけるステーションを目指し、日々精進いたします。

## はな訪問看護ステーション（岡山B）

管理者 近藤 智之

岡山市中区に今年の2月から新しく始めた事業所です。

同事業所では利用者だけではなく、そのご家族も支えることをモットーに、利用者が住み慣れた地域や住まいで生活を送れるように看護ケアや自立への援助を提供することで在宅での生活を支援していきたくと思っています。また働いてくれているスタッフを大切に労働環境づくりに注力していきたく思っており、スタッフの考えや意見が通る、働きやすい環境を作っていきたいです。

## 訪問看護ステーションのどか（津山）

管理者 金木 こと江

令和3年5月1日より津山市神戸ののどか宅老所内に看護師3名にて開設しました。

コロナ感染症まん延の最中であり営業活動にも苦労していますが、一人一人を大切に、笑顔を忘れず、地域住民の方々に信頼される訪問看護ステーションとして、健康支援（予防から健康維持・回復・看取り）を行います。のどかの理念である「あなたの心の拠りどころでありたい」をモットーに嬉しいときはともに笑い、悲しいときは一緒に泣こう、愉しくのどかに地域と歩む「あなたに出会えてよかった」と思われる看護を心がけて日々努めていきたくと思っています。

## 令和3年度役員名簿

役 職 (地区)		氏 名	所 属
会 長		江 田 純 子	岡山県看護協会 地域包括ケア推進室
副 会 長		押 目 有 紀	みどり訪問看護ステーション
		菅 崎 仁 美	岡山県看護協会 訪問看護事業所
理 事		内 田 耕 三 郎	岡山県医師会 常任理事
		氏 平 徹	岡山市医師会 理事
		宮 田 明 美	岡山県看護協会 会長
理 事	岡山A	能 勢 由 江	岡山しげい訪問看護ステーション
	岡山B	中 島 貴 子	西大寺訪問看護サービスセンター
	岡山C	平 田 晶 奈	訪問看護ステーションエール
	東 備	平 山 綾 子	赤磐市訪問看護ステーションベル
	井笠・浅口	三 原 由 記 子	訪問看護ステーション瀬戸いこい苑
	新見・高梁	須 藤 美 帆	阿新虹の訪問看護ステーション
	真 庭	大 西 直 美	真庭市訪問看護ステーション
	津 山	豊 福 ま ゆ み	津山第一病院訪問看護ステーション
	倉敷・総社	小 山 律 子	訪問看護ステーション青空
監 事		仕 田 原 明 珠	訪問看護ステーションくじば
		秋 山 陽 子	倉敷しげい訪問看護ステーション

## ～新卒採用～

津山中央訪問看護ステーション  
管理者 竹内美里

「訪問看護師になりたい?まあ、まずは病棟で技術を身につけて・・・。」などと、言っていた頃がありました。しかし、一方で人材の確保が難しい状況は続いています。訪問看護を志す新人看護師を「ステーションで育てる」ことが、人材確保とステーションの成長につながることで学び、今年、新卒訪問看護師育成プログラムによる教育システムを活用させていただきながら、育成することになりました。現在、指導者が同行訪問してOJTを続け、少しずつ力をつけています。ゆっくりで良いので、一つ一つの看護行為が根柢を持って行える、そして冷静にアセスメントできる看護師をめざして、指導者、まわりのスタッフで支えていこうと頑張っています。

## ～災害対策～

倉敷中央訪問看護ステーション  
中嶋香織

6月29日、訪問看護レベルII研修「在宅におけるリスクマネジメント・災害対策」を受講しました。近年、全国各地どこでも豪雨災害が起きています。今回は、広島県安芸地区医師会総合介護センターの板谷裕美先生より、「～西日本豪雨災害の訪問看護の支援活動と備え～災害対策」を講義いただきました。災害の基礎知識・在宅ケアにかかわる事業所の災害時の対応、利用者の自助力を高めるための支援、そしてBCPについての取り組みをとて詳細に教えていただきました。平成30年の豪雨災害を振り返りながら、私の住む地域では今何ができていのか、これからの備えはどうか、今一度見直していく機会となりました。当ステーションでも事業所内での災害勉強会やBCP作成に活かしていきます。

## ～体験研修～

訪問看護ステーションエール  
管理者 平田晶奈

当社は体験研修を積極的に活用しており、2019年1名、2020年6名、2021年度はすでに8名の受け入れを行っています。

体験者は、①病院勤務の看護師 ②看護学生 ③離職中の看護師など様々です。

体験の目的は、①訪問看護の実際を知り、現職に活かしたい ②進路選択のため ③就職活動が多く、体験を終えた際には「訪問看護が、幅広い年齢層に柔軟に対応していることに驚いた」「入院中の患者よりイキイキしてるように感じた」など、在宅療養生活の実際や訪問看護へのイメージが大きく変わったという感想をいただいています。

また、昨年度から今年度にかけて、体験者の内3名が当社への就職に至りました。体験事業を通じて、訪問看護の認知向上、病院-在宅の看看連携強化、事業所の人材確保などの効果を実感しています。



# 訪問看護ステーションのICT化への取り組み

～平時・緊急時の地域内連携強化、看護業務の効率化、感染予防がメリット～

当協議会は、昨年度、地域包括ケアシステムの構築において県が推進している多職種連携情報共有ツール「晴れやかネット拡張機能ケアキャビネット」にグループとして加入し、訪問看護ステーションのICT化への取り組みの支援を始めました。重点事項の地域の訪問看護ステーション間や関係機関とのネットワーク強化、入退院支援・サービス担当者会議、委員会・会議・集会・研修など広く活用していただくよう取り組んでおります。ケアキャビネットは厚生労働省の「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン」に準拠した安全な環境で使用できますので、個人情報保護の上で安心できるものです。コロナ禍において、感染対策としてWEB活用が普通のこととなってきました。

現在、会員の約40%が加入し、地域の事業所間連携やWEB会議、オンライン研修などに活用しておられ、「移動時間が短縮し会議や研修に参加しやすくなった」という効果が出ています。今年度は入会金が免除されており、施設の1人目は月額1,800円、二人目以降は月額500円の会費が必要となりました。退院時共同指導料などを活用し、ICTへの取り組みをお考えいただければ幸いです。未加入事業所の方はこの機会にお申し込みいただきますようお願いいたします。事務局にご相談いただければご案内します。

現在、訪問看護業務システムとケアキャビネットとの連携については、実証利用中です。既存の訪問看護業務ツールとケアキャビネットの連携についても検討中ですが、2つのシステムが同時に使用できることによって、訪問看護事業所間連携や業務の効率化、働き方改革が推進するものと考えております。

そこで、本年度から「訪問看護ICT連携基盤整備事業」（県委託）を計画し、効率的な事業所間での情報共有など、訪問看護業務の効率化や、事業所間のネットワーク強化に係る有効性を明らかにしながら、ICTによる訪問看護事業所間の連携基盤を早期に整備していきたいと考えております。

皆様と一緒に、ICTへの理解を深め、慣れ、前向きに取り組んでまいりましょう。

## 便利グッズの紹介

### しんしあ訪問看護リハビリステーション

管理者 鶴田 節子



猛暑の中での訪問、熱中症対策はどうされていますか？  
私のステーションでは、NASAが研究開発したP.C.Mという素材を使ったアイスネックバンドを使ってみました。P.C.Mという素材は、27℃以下で凍結するので、冷蔵庫で10分、冷水につけると20分で凍結、27℃以下の室温で放置しておけば常に27℃をキープするという優れもの。訪問の移動時間に車のエアコン吹き出し口にセットしておくだけで凍結するので、一日中ひんやり感が続きます。2本を交互に凍結させて使っています。  
価格は、1本2,000円～3,000円程です。ちょっと高いし、ほんとうに冷却効果があるのか心配でしたが、スタッフには大好評でしたので、皆さんにもおすすめします。  
コロナ禍で、マスクが欠かせない毎日、疲労も蓄積していきますよね。最近では、マスクに貼り付けるアロマのステッカーや、マスクに吹き付けるアロマミストなどが市販されています。  
手軽にアロマでリフレッシュするのはいかがでしょうか。



## 「新型コロナウイルスワクチン接種体制確保にかかる事務委託」報告

事務局長 亀川 展子

岡山県より新型コロナウイルスワクチン接種体制確保にかかる事務を委託され、訪問看護ステーション従事者へのワクチン接種体制を整える支援をさせていただきました。

令和3年2月から6月まで、接種予定者の把握、接種医療機関のご案内、県との調整および連絡、予診票の発行を行い、102事業所（サテライト含む）1,041人の方に、予診票の発行を行いました。当初は、予定されていた国からのワクチン分配の遅延により、混乱が生じましたが、県ワクチン対策室と連携を取りながら、5月までの入職者に対して、ワクチン接種体制を整えることができました。安心して訪問看護サービスが提供でき、利用者も在宅療養を継続できることを願っています。

## 寄付金をいただきました

賛助会員の株式会社東洋羽毛工業様より、協議会の新型コロナウイルス感染症対策の充実のため、金一封をいただきました。皆様が安心して研修、会議、委員会に参加できるよう有効に活用させていただきます。ありがとうございました。

## 事務局職員紹介

令和3年4月より、以下3名が勤務しております。宜しくお願い致します。

- ・木村 祐美子
- ・永田 由美
- ・横田 由紀子

## 編集後記

新型コロナウイルス感染症対策で、マスク着用等行いながらの訪問も2年目となりました。3密を回避しての業務の工夫や、夏の猛暑の対策など、各ステーションで対処されていることと思います。1年遅れのオリンピックや夏休みが重なりデルタ株の拡大と、感染症の終息の目途が立たない状況ですが、いつか終息することを信じて、毎日の業務を確実に行っていきたいものです。一緒に体調管理に十分気を付けて、頑張っていきたいと思います。 広報委員一同